

■移住定住対策について

本委員会では、前回の中間報告以後の1月21日に、既に移住定住をされた5名の皆さんと、次の4点について2時間にわたり意見交換を行いました。

- ①移住しようとした動機
- ②移住先に富良野を選んだ理由
- ③移住を開始してから、富良野の良かった点、悪かった点
- ④移住をするにあたり、相談した相手などについて

移住のきっかけは「富良野の自然のよさ」「接してくれた方の人柄の良さや、繋がり」良かった点は、新規就農が出来たこと、まちなかの自然の多さ、人々との繋がりが上げられた一方で、なかなか就職が出来ないことや住居が見つからないなどの意見が出されました。実際に移住をするにあたっては、自分で情報収集を行い、自らの責任において移住を決意したという点が印象的でありました。移住定住の判断には移住者の主観も影



お試し暮らし住宅

響すると考えられますが、総じて居住、仕事、食の条件を満たすことが出来れば、移住は容易になるものと考えられます。委員会では半年にわたり調査研究を行い、委員による意見交換を重ねてきました。

最終報告として、移住定住対策は富良野市にとって重要な課題と認識しており、移住定住対策に対しこれまで以上に明確にした行政運営を行うこと。施策の方向性としては、移住者に対して直接的支援は行わずに、医療・福祉・教育・雇用・自然環境・文化を守り育てるなど、まちづくりの充実を図ることによって、移住定住を促進すべきであるとの結論に至りました。

■冬季観光の現状について調査

本市の冬季観光客入込み数は、平成元年度下半期で139万3千人をピークに減少傾向に転じ、平成10年度には、初めて夏と冬の観光入込み数が逆転し、平成20年度下半期は80万5千人と、ピーク時の約6割となっております。

富良野を訪れる外国人観光客の多くは、ファミリーや中高年を中心にしたスキー客であり、最近では子供連れの外国人スキーヤー向けに、託児所の設置、外国人も受け入れ可能なスキースクールの開設、スキー場内の単独行動によるトラブル防止や富良野の情報提供も行う、スキーホストのボランティアの活用など、外国人観光客の受入れ体制の整備をしておりますが、冬季間のアウトドアガイドの不足から、冬の富良野の魅力伝えきれないのが現状です。

■冬季観光の課題を5点提起

- ①ホスピタリティの向上
- ②外国人観光客の受け入れ体制の整備
- ③富良野市民のスキー利用促進
- ④今後の観光を担う人材の育成と確保
- ⑤新たな冬季観光の魅力の発信

以上5点について委員会の議論経過を踏まえてまとめを行い、議会に報告を行いました。

夏季、冬季を問わず、豊富な観光資源を活かして外貨を生み出し、新たな観光資源に投資するなど、市内の産業全体が観光関連の経済効果を享受できる仕組みづくりを行政がリーダーシップをとって構築する事が、観光振興、市内経済活性化の鍵となります。



外国人観光客との交流イベント風景